

異文化・国際理解の系譜

中間報告

吉留公太・阿部克彦・泉水英計・高城 玲

1 研究の目的

異文化・国際理解の必要性や重要性が叫ばれて久しく、その方法論においては、日本国内の多くの大学や研究機関、各分野の研究者においても、層の厚い研究や様々な実践が積み重ねられてきた。本共同研究プロジェクトでは、これまで各分野、各地域に関して積み重ねられてきた異文化・国際理解の方法論や実践に関する動向をひもときながら整理することを目的とする。具体的には、主として大学における異文化・国際理解の教科書や実践の事例に焦点をあてることでその方法論の系譜を探ってみたい。

2 研究方法

異文化・国際理解の方法論は多様な学問分野にまたがっており、本共同研究プロジェクトに参加している4名がそれぞれの専門分野から多角的に動向を研究調査する意義は大きいと判断しており、そのように研究調査を進めている。具体的活動としては、邦語と外国語文献の収集と読解、日本国内と海外研究動向の把握、美術資料の状況調査、フィールド・リサーチ、資史料収集と読解などを行う。

なお、本プロジェクト参加者の専門分野と研究調査対象は次のようなもので

ある。阿部は美術史と東西文化交渉分野を専門としており、イラン・フランス語圏地域に関する動向を調査する。泉水は社会人類学と民俗学分野を専門としており、英語圏と東アジア地域に関する動向を調査する。高城は文化人類学と東南アジア地域研究を専門としており、東南アジア地域に関する動向を調査する。吉留は国際関係論と国際政治史を専門としており、主に米欧関係に関する動向の調査と全体の統括を行う。

3 2015年8月までの研究活動

3-1 美術史と東西文化交流について

本分野担当者の阿部は、東西美術交流史の観点から近世イランの染織品に注目し、17世紀から18世紀にかけて、イランと北欧諸国との間に行われた交渉を物語る歴史的資料であり、本調査を通じて、異文化・国際理解の系譜を歴史的に検証することを目的としたものである。本調査のため、2015年3月5日から3月12日までデンマーク、コペンハーゲンに滞在し、同市のThe David Collection美術館およびRosenborg城に所蔵されているイラン・サファヴィー朝期の染織美術品を調査した。The David Collectionにおいては、同館長のKjeld von Folsach博士からは、所蔵品に関する多くの情報を提供され、未展示の資料についても情報を得られた。加えて、今後の詳細な資料調査、具体的には画像撮影、マイクロスコープによる組織観察などについても協議した。なお、コペンハーゲン市内のRosenborg城の資料は、展示公開されていないため、別途調査許可を申請後次回の調査実施を予定している。

3-2 社会人類学と民俗学分野について

本分野を担当する泉水は、民俗学的動画記録として知られる「渋沢フィルム」の撮影地調査を目的に中国東北部に出張した。ハルビンではロシア時代から旧満洲国時代の史跡に加え、現地案内者の強い希望もあって、増築されたばかりの侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館（細菌戦部隊跡地）を見学した。瀋陽では、奉天時代の南満州鉄道関連史跡、九・一八事変博物館（柳条湖事件跡地）を見学したほか、同市内のイスラム教徒集地区および朝鮮人街を巡見した。この調

査行とあわせ、ハルビン師範大学で開催された国際シンポジウム「東亜學術論壇2015東亜的歴史、現在と未来—文化交流と相互認識」にて「渋沢敬三のみた満洲」という題で口頭発表して、質疑応答のなかで論点の整理と更なる情報収集をおこなった。

3-3 文化人類学について

本分野を担当する高城は、文化人類学における近年の異文化・国際理解の動向を探ることを目的として、主に大学教育における関連の教科書等を中心に文献の収集を行い、その整理と分析を進めている。また、東南アジア地域（主にタイ）を対象とする異文化・国際理解教育の具体的実践例に関して、東京外国語大学や国立民族学博物館など日本国内の大学や研究機関での調査をあわせて進めている。

3-4 国際関係論と国際政治史について

本分野を担当する吉留は、冷戦終焉期から現在までの米欧関係の展開を把握することを目的として、関係文献の収集と読解、資史料収集と分析とを行った。資史料収集については、2015年2月末から3月初頭にかけて訪欧し、イギリス・ロンドンとオランダ・ハーグに滞在した。

ロンドンでは主にナショナル・アーカイブにて史料調査をおこなった。この調査では新規開示史料を含む貴重な史料を入手することができた。これらの史料は、旧ソ連・東欧の社会主義諸国とイギリスや欧米諸国間の外交交渉過程の一端を示すものであり、目下その読解と分析を継続している。ハーグでは主に旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所を訪問し、旧ユーゴ紛争の戦犯容疑者（ボスニア・セルビア人勢力のムラジッチ将軍など）の裁判を傍聴し、関係資料を収集した。ハーグでの調査では、冷戦終焉期の欧州地域情勢を特徴づけていた民族紛争について、その法的責任追及と真相究明の現況把握に努めた。

4 2015年9月以降の研究計画と課題

2015年9月以降はこれまでの活動を継続しつつ、とりわけ上述の3-2、3-

3分野に重点を置いて研究活動の拡充をはかる。また、出版社と適宜連携を図りつつ、本共同プロジェクトの研究成果を反映させられるような教科書あるいは研究書出版に向けた準備作業を行う予定である。